〔住吉物語〕かみびやうぶに、やまとゑかきたる一よろひたて、もやのみすにくちきがたのきやうかたびらかけて、いとあるべかしくゑつらひたり、

〔玉海〕元暦元年十一月廿三日丁未、大將五節裝束以下、饗祿等注文、略中小師略中屏風一帖唐紙、

〔康富記〕嘉吉三年五月廿八日壬午、藏人權右中辨俊秀爲六月會勅使、自今日被參向延曆寺者也、略中

參著勅使坊、以東塔南谷西尊院爲勅使坊、疊兩三帖、反古張屏風等雖有之、其外具足更以無之、

〔源氏物語四十六 椎本〕三月の廿日の程に、兵部卿の宮はつせにまうで給、古き御願なりけれと、おぼしもたゝで、年ごろになりにけるを、宇治のわたりの御中やどりのゆかしさに、おほくはもよほされたまへるなるべし、略中こゝはまたさまことに、山里びたるあじろ屏風などのことさらにことそぎて、み所ある御ゑつらひを、さるこゝちしてかきはらひ、いとといたうゑなし給へり、

〔河海抄十七 椎本〕普通のあじろにて張たる屏風也、昔は山庄などの古めかしき調度には定事なり、漆骨に片面を張て、細組にて閉合たる物也、籧屏風と云也、又ひあじろの屏風といふ物あるか、くるまのひあじろは、竹とひに白く曝てくみたるもの也、其體物歟、

〔仙源抄阿〕あじろ屏風　籧篨、竹ニテクミタル屏風也、

〔誠齋雜記〕吳隱之爲度支尚書、以竹蓬爲屏風、坐無氈席、

〔蜻蛉日記中之下〕故あせち大納言の領し給ひし宇治の院に至りたるに、略中所のあつかりしけるものゝ、まうけをしたれば、たてたる物主の是なめりと見る物見より、簾、網代屏風、黑かいの骨に朽葉の帷子かけたる几帳どもゝ、いとつきづきしく敷も哀とのみ見ゆ、

〔述齋偶筆〕樂翁君の雅尚、よのつねならざりしは、人も知る所なれど、其中にも意表に出しは、玻璃板のいと大なるを屏風に嵌せられき、こは君もと多病にして、老後雪月をながめでらるれば、風寒に傷められしこと屢なりしを、防がんための料なりけり、君は儉素を專らとして、痛く華美